

平成23年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定内容

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成23年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成24年9月13日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者19名、委託関係者29名ほか、計78名の参加を得て、除草剤19薬剤(116点)、及び

生育調節剤1薬剤(4点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成23年度 冬作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤 (1)小麦

注)アンク-ラインは新たに判定された部分を示す。

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. BCH-0817プロ フルジフルフェニカン 8.4% フルフェナセト 33.6% [ハイエル クロップサイ エンス]	実・雑	一年生雑 草(イヌカミツ レを含む)	茎葉兼 土壌	播種後～ 小麦3葉期、 イネ科雑草1L まで	60～80mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	・葉に白斑や黄化、褐変を 生じる場合がある *SU抵抗性、ジネトロアリン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効	・カスノコサ発生後 処理(小麦1～3葉) での効果の確認 ・抵抗性スズメノテッポ ウ発生前処理の60 ～70mL、発生後処 理(小麦1～3葉)で の効果の確認
		カスノコサ	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	80mL 散布水量 100L		東北以南		
		*抵抗性ス ズメノテッポウ							
2. BCH-109 細粒 ジフルフェニカン0.2% フルフェナセト0.6% [ハイエルクロップサイ エンス]	実・雑	一年生雑 草	土壌	播種後～ 小麦2葉期、 イネ科雑草1L まで	4kg～5kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・葉に白斑や黄化、褐変を 生じる場合がある	・カスノコサ、抵抗性 スズメノテッポウに対す る効果の確認
3. HPW-105 乳 トリフルアリン 33% IPC 11% [保土谷UPL、 タウ・ケミカル日本]	実・雑 (従 来ど おり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・ツユクサ科、カタツクサ科、キ ク科を除く	・カスノコサ、抵抗性 スズメノテッポウ、 <u>ヒリスム</u> ギ、ネズミキに対する 効果の確認
4. KUH-112 乳 ピロキサスルホン1.0% ベンチオカーブ66.0% リネクロン12.0% (W/V) [クマイ化学工業]	雑								・効果、葉香の確認 (東北以南)
5. NC-613 乳 エスアロカルブ 60% ジフルフェニカン 1.5% [日産化学]	実	一年生雑 草(イヌカミツ レを含む)	茎葉兼 土壌	播種後～小 麦出芽前2葉 期、雑草発 生始期ま で	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・葉に白斑を生じる場合が ある *SU抵抗性、ジネトロアリン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効 ・イヌガシが多発する圃場 では高薬量で使用す	・小麦1～3葉期処 理での効果、葉香の 確認(北海道)
		一年生雑 草		播種後～小 麦出芽前、 雑草発生始 期まで	300～ 500mL 散布水量 100L		東北以南		
		*抵抗性ス ズメノテッポウ		播種後～小 麦出芽前、 スズメノテッポウ 発生始期まで					
		カスノコサ		播種後～小 麦出芽前、 カスノコサ発 生始期まで	400～ 500mL 散布水量 100L				

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
6. NC-613細粒 エスプロカルブ 6% ジフルフェニカン 0.15% 〔日産化学〕	実	一年生雑草 カスノコグサ *抵抗性スズメノテッポウ	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	3~5kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・薬に白斑を生じる場合がある *SU抵抗性、ジニトロアミン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効	・カスノコグサ、抵抗性 スズメノテッポウに対する 効果の確認
7. NH-007フロアフル グリスロサートイソプロピル アミン塩30% ピラフルフェンエチル 0.16% 〔日本農業〕	実・雑	多年生イネ 科雑草 一年生雑 草	茎葉兼 土壌	耕起7日以前 耕起前、雑 草生育期	500~ 1000mL 散布水量 100L 400~ 600mL 散布水量 100L	全土壌	北海道 全域	周辺作物に飛散しないよう に注意する。	・播種後出芽前処 理での効果、薬害 の確認 ・耕起直前処理で の年次変動の確認
8. SYJ-100乳 プロスルホカルブ 78.4% 〔シンジエンタ シヤバ ン〕 〔初冬播き栽培 を盛り込んだ 使用基準〕	実・雑	一年生雑 草(イヌカヅル を含む) 一年生雑 草(イヌカヅル を除く) *抵抗性ス ズメノテッポウ カスノコグサ ヤムムグラ	茎葉兼 土壌	播種後~ 小麦2葉期、 雑草発始 期まで 小麦2~4葉 期、雑草発 生始期まで 播種後~ 小麦2葉期、 スズメノテッポウ 発生始期ま で 播種後~小 麦2葉期、カ スノコグサ 発生始期ま で 小麦1~2葉 期、ヤムムグラ 発生始期	400~ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	全域 東北以南	・葉斑、黄化、縮葉などの 症状がみられる場合がある ・北海道の小麦2~4葉期 処理は初冬播き栽培で使 用する。 ・東北以南の小麦2~4葉 期処理は前処理剤との体 系で使用する。 *SU抵抗性、ジニトロアミン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効	・カラスムギ、ネズミムギ に対する効果の確認 ・発生前処理でのヤ ムムグラに対する効果 の確認 ・抵抗性スズメノテッポ ウに対する効果の年 次変動の確認 ・問題雑草多発圃 場における体系処 理での効果の確認 ・小麦3~4葉期処 理(土壌処理剤との 体系)での年次変動 の確認 ・雑草2葉期での効 果の確認 ・イヌカヅルに対す る小麦1~2葉期での 年次変動の確認。 (北海道)
9. SYJ-227細粒 プロスルホカルブ 7%、 リニオン 1.75% 〔シンジエンタ シヤバ ン〕	実・雑 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	3~4kg	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南		・カスノコグサ、抵抗性 スズメノテッポウ、ヤム ムグラに対する効果の 確認
10. トリフルラン乳 トリフルラン 44.5% 〔タウ・ケミカル日本〕	実・雑 (従来ど おり)	一年生雑 草(ツユクサ、 カヤツリグサ、キ ク、アブラナ科 雑草を除く) 一年生イネ 科雑草 一年生イネ 科雑草、 カスノコグサ	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前 播種後~小 麦3葉期、イ ネ科雑草1葉 期 まで 小麦生育期 中耕培土後 雑草発生前	200~ 300mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	全域 北海道 東北以南	・中耕培土後処理は、播種 後の土壌処理剤との体系 で使用。	・カスノコグサに対する 効果の変動要因の 確認 ・小麦生育期(前処 理剤との体系)に上 る効果、薬害の確 認

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
A. 除草剤 (1)小麦(初冬播き栽培)									
NH-9301 フロアフル ビラフルフェニチル 2.0% [日本農薬] 〔小麦(秋播)の 使用基準〕	実・雑	一年生広 葉雑草	茎葉	小麦2~4葉 期、広葉雑 草2~4葉期	50~100mL 散布水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	北海道 東北以南	・体系処理:イネ科雑草に 有効な既登録土壌処理剤 との組合せて使用する。 ・極端な低温条件では 100mLを使用する。 ・越年した雑草に効果が劣 る。(北海道) ・展着剤を加用しない。 ・初冬播き栽培でも使用可 能(北海道)	・秋処理でのイヌカシ レに対する効果の確 認
				小麦止葉抽 出前まで、春 雑草発生始 期4葉期まで	50~ 75100mL 散布水量 100L				
				小麦節間伸 長開始期ま で、雑草2~ 4葉期	50~100mL 散布水量 100L				
		ヤエムグラ		小麦節間伸 長開始期ま で、ヤエムグラ2 ~6節期	50~100mL 散布水量 100L				
12.SYJ-100 乳 プロスルホカルブ 78.4% [シンジエンタ ジャパ ン]				小麦(秋播)の使用基準に盛り込んだ					
A. 除草剤 (2)大麦									
1.BCH-109 細粒 ジフルフェニカン:0.2% フルフェネシット:0.6% [バリエルクロップサイエ ンス]	実・雑	一年生雑 草	土壌	播種後~ 大麦出芽揃、 雑草発生始 期まで	4kg~5kg	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南	・葉に白斑や黄化、褐変を 生じる場合がある	・抵抗性スズメノテッポ ウに対する効果の確 認 ・大麦1~2葉期で の効果の確認。
2.HPW-105乳 トリフルリン 33%、 IPC 11% [保土谷UPL、 ダウ・ケミカル日本]	実・雑 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	300~ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南	・ツクサ科、カヤツグサ科、 キク科を除く	・カス/コクサに対する 効果の確認
3. SYJ-100乳 プロスルホカルブ 78.4% [シンジエンタ ジャパ ン]	実	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	播種後~大 麦2葉期、 雑草発生始 期まで	400~ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南	・葉斑、黄化、縮葉などの 症状がみられる場合がある	・カス/コクサに対する 効果の確認 ・キエムグラに対する 効果の確認
				播種後~大 麦2葉期、カ ス/コクサ発 生初期まで					
				播種後~大 麦2葉期、ヤ エムグラ発 生初期まで					
4. SYJ-227細粒 プロスルホカルブ 7%、 リニユロン 1.75% [シンジエンタ ジャパ ン]	実・雑 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	3~4kg	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南		・カス/コクサ、抵抗性 スズメノテッポウに対 する効果の確認

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
5. トリフルリン乳 トリフルリン 44.5% [タウ・ケミカル日本]	実・雑 (従来どおり)	一年生雑草(ツユクサ、カヤツグサ、キクアフラナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200~300mL 散布水量100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	1)中耕培土後処理は播種後の土壌処理剤との体系で使用する	・カスノコグサに対する効果の変動要因の確認(中耕培土後処理) ・大麦生育期(前処理剤との体系)による効果、薬害の確認
		一年生イネ科雑草、カスノコグサ		大麦生育期中耕培土後雑草発生前					

A. 除草剤 (3)水稲刈跡

1. NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	実・雑 (従来どおり)	一年生雑草	茎葉	水稲刈取後雑草生育期(草丈30cm以下)	200~500mL 散布水量25~100L	全土壌	全域	・少水量散布(25~50L/10a)の場合は専用ノズルを使用する	・ミスガヤツリ、オモダカ、クワグワイ以外の多年生雑草に対する、翌年の発生量低減効果の確認
		多年生雑草			500~1000mL 散布水量25~100L				
		ミスガヤツリ、オモダカ、クワグワイ(翌年発生低減効果)			水稲刈取後雑草再生時(草丈30cm以下)				
2. SBH-207 (IBNHS-50) 粒 塩素酸ナトリウム:50% [エス・ティイー・エス・ハイオテック]	実・雑 (従来どおり)	一年生雑草、多年生イネ科雑草、マツハイ	土壌	水稲刈取後雑草生育期	20~25kg	全土壌	東北以南		・多年生イネ科雑草に対する薬量と効果の確認 ・オモダカに対する当年の効果、および翌年の発生量低減効果の確認

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. BAW-0907液 クアルモコート 65.6% [BASFジャパン]	実・雑	秋播き小麦 節間伸長抑制による倒伏軽減	茎葉	出穂前20~10日(草丈40~60cm)	200~300mL 散布水量100L	全土壌	北海道		・幼穂形成期での効果、薬害の確認(北海道)